

センター長挨拶



農学国際教育研究センター
センター長 山内章

農学国際教育研究センターは、基礎研究と海外のフィールド調査研究を推進し、その出口を現場の問題の解決に資することを明確に見据えた成果を追求してきました。近年、新興国を中心とする食需要の多様性が益々広がる中で、食料安全保障と栄養改善目標、環境保全を前提とした持続的生産へのアプローチとして、先進国が蓄積してきている基礎的知見を技術として確立し、実社会へ馴化していく上で、フィールドサイエンスの担うべき役割が一層重要性を増しています。そこで、設立以来のミッションの位置付けを改め、国際農業開発分野における国際共同学術研究の推進とそれをベースとした農学国際教育の機能を先鋭化させ、学内関係部局、ならびに国内外の中核研究拠点との連携の深化によるグローバルな農学への貢献度を高めることを目指し、2018年4月に、農学国際教育協力研究センターから現在の名称に改称し、新たな出発をしました。

世界の農林業現場は、地球規模の農学的課題や新たな学術的知見の創出が見込まれる研究シーズを豊富に包含し、課題解決と基礎研究の成果の現場への適用を実現する場として、また農学領域の学問分野を統合した新たなアプローチの開発と実践およびそのための教育・人材育成の場としてもきわめて重要です。そのような現場を重視して、当センターは、若い研究者・技術者をどう育てていくかについての知見、経験を蓄積、交流し、そして本来総合的学問である新たな農学の創造に貢献したいと考えています。

関係各位の、当センターの活動に対する温かいご理解とご支援、また積極的なご参画をお願い申し上げます。

01 設立の背景

開発途上国では、食料不足、農業生産の低迷、貧困、環境破壊、家畜感染症など農学領域に関連した多くの問題が未だに解決されないまま残されており、これらが国際的な課題になっています。このような課題を解決するには、社会経済的影響、自然の有効利用、自然環境との調和などに配慮した適正な農業技術の開発とともに、人材育成が重要です。これらの課題の解決ならびに人づくり教育に対する国際協力の必要性は高く、我が国も積極的に国際貢献を行うことが求められています。

文部省（現、「文部科学省」）は、とくに90年代からのこのような流れを踏まえ、時代に即応した国際教育協力の在り方に関する懇談会を設置し、1996年6月の報告の中で、増大する国際教育協力への要請に対する我が国の積極的な国際貢献の重要性、大学をはじめとする教育機関の重要な任務としての教育協力の位置づけ、効果的な教育協力の推進のための事業間・機関間の連携、教育機関による主体的組織的対応の重要性など、国際教育協力に関連する新たな政策を表明しました。

この政策実現の一環として、当センターの前身である農学国際教育協力研究センターは、文部省の指導のもとに、農学領域の開発問題を実践的に解決する人づくり協力をリードする拠点として機能することを目的に、1999年4月、名古屋大学に設立されました。

大学院教育

農学国際教育研究センターは、大学院生命農学研究科の植物生産科学専攻における大学院教育に携わっています。海外経験が豊富な教員によって、国際的な視野に立った研究やキャリアパスを求める人材の育成に努めています。また、大学院生は独立行政法人国際農林水産業研究センター（JIRCAS）で研究指導を受けることができます。